京都大学学術情報リポジトリ
KURENAI 紅
Kyoto University Research Information Repository

京都大学
KYOTO UNIVERSITY

Title	精巣白膜嚢胞の1例
Author(s)	水上, 宏俊; 伊藤, 晴夫; 三浦, 尚人; 桝井, 眞; 小竹, 忠; 菅野, 勇
Citation	泌尿器科紀要 (1994), 40(5): 431-433
Issue Date	1994-05
URL	http://hdl.handle.net/2433/115262
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

Kyoto University

精巣白膜嚢胞の1例

帝京大学医学部附属市原病院泌尿器科学教室（主任：伊藤晴夫教授）
水上 宏俊，伊藤 晴夫，三浦 尚人
桝井 眞，小竹 忠
帝京大学医学部附属市原病院病理学教室（主任：長尾孝一教授）
菅野 勇

CYST OF THE TUNICA ALBUGINEA TESTIS: A CASE REPORT

Hirotoshi Minakami, Haruo Ito, Naoto Miura, Makoto Masui and Tadashi Kotake
From the Department of Urology, Teikyo University School of Medicine, Ichihara Hospital
Isamu Sugano
From the Department of Pathology, Teikyo University School of Medicine, Ichihara Hospital

The patient is a 75-year-old male presenting with a chief complaint of a left painless intrascrotal mass. The left testis was tense to palpation with induration inside. Ultrasonography demonstrated a 3.0×1.5 cm cystic space along the margin of the left testis. Left high orchiectomy was performed. Histopathological diagnosis was tunica albuginea cyst. Important differential diagnosis includes a simple testicular cyst and epidermoid cyst of the testis.

(Acta Urol. Jpn. 40: 431-433, 1994)

Key words: Tunica albuginea testis, Cyst

緒言

精巣白膜嚢胞は精巣白膜に発生するきわめて稀な疾患である．今回われわれは，75歳男性に発生した精巣白膜嚢胞の1例を経験したので，若干の文献的考察を加えて報告する．

症例

患者：75歳，男性

主訴：左陰嚢内無痛性腫瘤

家族歴：特記すべきことなし

既往歴：56歳時尿管結石，70歳時大腸ポリープ，74歳時前立腺肥大症にて TUR-P 施行．

現病歴：1992年12月左陰嚢内無痛性腫瘤に気づき，1カ月後当科受診．

入院時現症：身長 160 cm，体重 76 kg．血圧 149/78 mmHg．脈拍72/分，整．胸腹部理学的所見異常なし．表在性リンパ節触知せず．左精巣は緊満性に腫大し，内部に硬結を認めた．圧痛なく，透光性は認めなかった．

入院時検査成績：血液生化学にてクレアチニン 1.5 mg/dl と軽度上昇している以外，血液一般，尿一般，尿沈渣に異常を認めなかった．尿細胞診 class I. AFP 2.0 ng/ml 以下，HCG 0.4 mIU/ml 以下，β-HCG 0.1 IU/ml 以下．血沈 10 mm/hr. CRP (−).

画像所見：胸部単純X線，DIP に異常所見を認めなかった．

超音波検査：左精巣内に大きさ 3.0×1.5 cm の境界明瞭，内部は均一で無エコーを示す嚢胞性病変を認めた (Fig. 1).

以上の所見より，左単純性精巣嚢胞の診断を下したが，超音波検査所見にて嚢胞壁の一部に不整を認めたため悪性腫瘍の可能性を否定できなかったため，1993年2月5日，左高位精巣摘除術を施行した．

手術所見：左鼠径部皮膚に切開を加え，鼠径管を開き可及的高位に左精巣摘除術を施行．左精巣は大きさ 3.5×2.5×3.0 cm で精巣下極側に 1.8×1.5 cm の嚢胞が1個認められた．嚢胞内溶液は黄色透明であっ

Fig. 1. Ultrasonographic examination of left testis shows 3.0×1.5 cm cystic mass

Fig. 2. Low-power photomicrograph showing a tunica albuginea cyst lined by cuboidal epithelium.

た.

病理組織学的所見：精巣実質内に精巣白膜と連続する嚢胞を認め，その内面は単層の立方上皮で覆われていた．炎症細胞は認められなかった (Fig. 2)．以上の所見より精巣白膜嚢胞と診断された．術後経過は良好で術後10日目に退院した．

考　　察

精巣白膜嚢胞は非常に稀な疾患である．1929年 Frater[1] による報告が最初である．本邦では1982年の徳永ら[2]，による報告が最初であり，自験例を含めこれまでに12例の報告があるにすぎない (Table 1)[2-9] 精巣白膜嚢胞の頻度に関して，Arcadi[10] が Johns Hopkins Hospital における46,000例の剖検例から3例の精巣白膜嚢胞が見られたと報告している．また，Nistal ら[11] は，4,618例の剖検例と855例の精巣摘除術施行症例中5例 (0.1%) に確認できたと報告している．自験例を含めた内外報告例55例について集計すると，年齢は23歳から75歳で平均48.5歳である．患側は右側26例，左側23例，両側1例，不明5例，で左右差は認めなかった．嚢胞数は，単発39例，多発16例と単発例が多く見られた．嚢胞径は 0.1 cm から 6 cm，平均 1.0 cm で 1.5 cm 以下のものがほとんどであった．

精巣白膜嚢胞の成因については種々の報告がある．初期の報告のうち Frater[1] は，外傷がその成因になると述べており，また Arcadi[10] は精巣，あるいは他の隣接臓器の炎症による二次的変化であると主張している．しかし，最近の報告では，Mancilla-Jimenez と Matsuda[12] が胎生期に精巣が発育する際に鞘状突起と白膜とが非常に接する精巣の前方から側方にかけて嚢胞が存在すること，嚢胞上皮が pH の低い Alcian Blue に良好な染色性を示すことから腹膜中皮組織由来のものと考えられると述べている．また，Bryant[13] は光学顕微鏡を，Mennemeyer と Manson[14]

Table 1. Reported cases of tunica albuginea cyst in Japan

	報告者	年	年齢	患側	大きさ (mm)	個数	治　　療
①	徳永ら	1982	48	左	小豆大～小嚢胞	数個	嚢胞壁切除
②	徳永ら	1982	60	左	3×3	1	精巣部分切除術 精巣上体摘出術
③	阿部ら	1984	62	左	4～5	4	嚢胞摘出術
④	青山ら	1984	43	右	5×6×3	1	嚢胞摘出術
⑤	青山ら	1984	40	左	5	1	嚢胞摘出術
⑥	青山ら	1984	53	右	嚢胞液 3 ml	1	嚢胞摘出術
⑦	薄　ら	1988	67	左	30×28	1	不　　明
⑧	金　ら	1990	26	右	2	1	精巣部分切除
⑨	稲富ら	1990	74	右	32×22×15	1	高位精巣摘除術
⑩	金　ら	1991	54	右	5	1	精巣部分切除 陰嚢水腫根治術
⑪	田中ら	1991	47	右	13×12×10	1	嚢胞摘出術
⑫	自験例	1993	75	左	30×15	1	高位精巣摘除術

は電子顕微鏡を用い，嚢胞上皮が精巣輸出管に類似した微絨毛を認めたことから中腎構造がその起源であると述べており先天性発生説が注目されている．本症においても外傷の既往や炎症の所見のないことから，先天的な成因により発生したものと思われる．超音波検査にて精巣内に単純性嚢胞を発見した場合，精巣白膜嚢胞，単純性精巣嚢胞，epidermoid cyst の3つの疾患の鑑別が必要である．

epidermoid cyst の場合，超音波検査にて内部エコーの存在を認めることをより鑑別することができる．単純性精巣嚢胞との鑑別では，触診上精巣白膜嚢胞が触知可能であるのに対し単純性精巣嚢胞では触知不能であることにより鑑別可能であるとされている．しかし1991年の金ら[8]の報告や，自験例のように精巣表面が平滑である例も見られ必ずしも触診により鑑別できるとはいいがたい。

結　　語

左陰嚢内無痛性腫瘤を主訴とした75歳，男性にみられた精巣白膜嚢胞の1例を報告し，若干の文献的考察を行った．

文　　献

1) Frater K: Cyst of the tunica albuginea (cysts of the testis). J Urol **21**: 135-140, 1929
2) 徳永周二，平野章治，美川郁夫，ほか：睾丸白膜嚢胞の2例．西日泌尿 **44**：293-297, 1985
3) 阿部良悦，山中雅夫，並木恒夫：早期に診断された睾丸白膜嚢胞の1例．臨泌 **38**：915-917, 1984
4) 青山龍生，本間昭雄，砂達敏行：陰嚢疾患の臨床的検討　1．陰嚢内疾患の臨床統計的観察．日赤医 **36** 117-123, 1984
5) 薄　宏，斉藤　稔：陰嚢水腫に合併した睾丸白膜嚢胞の1例．日泌尿会誌 **79**：1121, 1988
6) 金　哲将，神波照夫，朴　勺，ほか：精巣白膜嚢胞の1例．西日泌尿 **52**：479-482, 1990
7) 稲富久人，山口雷蔵，山田陽司，ほか：睾丸白膜嚢胞の1例．西日泌尿 **52**：1466-1470, 1990
8) 金　哲将，九嶋麻優美，ほか：精巣水瘤を合併した精巣白膜嚢胞の1例．泌尿紀要 **37**：1065-1068, 1991
9) 田中重人，森川洋二，辻田正昭：陰嚢水瘤に合併した精巣白膜嚢胞の1例．泌尿紀要 **37**：1727-1729, 1991
10) Arcadi JA: Cyst of the tunica albuginea testis. J Urol **68**: 631-635, 1952
11) Nistal M, Inguiz L and Paniagua R: Cyst of the testicular paranchyma and tunica albuginea. Arch Pathol Lab Med **113**: 902-906, 1989
12) Mancila-Jimenez R and Matsuda GT: Cysts of the tunica albuginea. Report of 4 cases and review of the literature. J Urol **114**: 730-733, 1975
13) Bryant J: Efferent ductule cyst of tunica albuginea. Urology **27**: 172-173, 1986
14) Mennemeyer RP and Manson JT: Nonneoplastic cystic lesions of the tunica albuginea: An electron microscopic and clinical study of 2 cases. J Urol **121**: 373-375, 1979

(Received on October 4, 1993
Accepted on December 27, 1993)